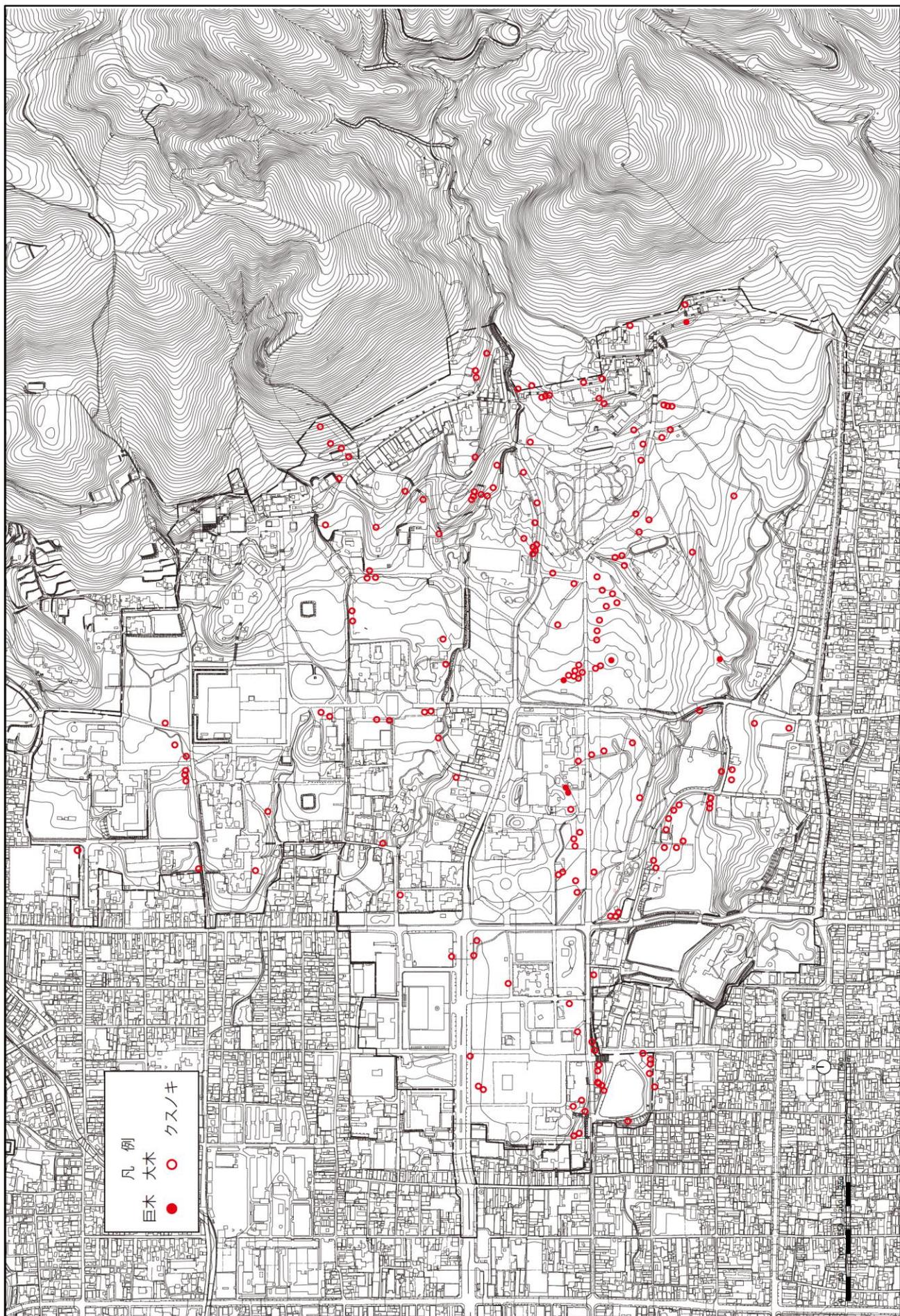


#### ④クスノキの分布

<p>大径木の分布</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・巨木は、ほとんどが春日大社旧境内に分布している。</li> <li>・大木は、公園全域に分布しているが、芝地や園路沿い、林縁など比較的日照条件の良いところに多く、来園者の目にとまりやすい位置が多い。</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <p>飛火野の巨木(明治41年植栽)</p> <p>片岡梅林の大木</p> </div>
<p>特徴・由来他</p>	<p>○巨木となる代表樹種</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クスノキは大きく生長し近畿圏ないには数多くの巨木が多く見られる。春日大社若宮社のクスノキは幹周11.2mで奈良県下トップクラス。</li> </ul> <p>○古い時代の移入樹種（潜在自然植生の構成要素ではない）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クスノキは日本国内では暖地の低地に自生し、山の中ではほとんど見かけない。公園や社寺に植栽されることが多い。</li> </ul> <p style="text-align: right;">出典：「奈良公園の植物」北川尚史</p>



検討範囲

図：クスノキ大径木の分布

## ⑤クスノキとイチイガシの分布比較

○クスノキとイチイガシの大径木の分布は、ほとんど重ならない。

次頁の「図：イチイガシ・クスノキ大径木の分布」で明らかなおり、両者の分布は重ならない。クスノキは興福寺旧境内、猿沢池、春日大社旧境内、東大寺旧境内に多く見られ、ほぼ公園全体に広がる。イチイガシは春日大社旧境内と手向山神社に集中している。

○クスノキは鬱閉度が低いところ、イチイガシは鬱閉度の高いところに分布する。

クスノキの多くは芝地や園路沿い、疎林地、林縁など鬱閉度の低いところに分布している。

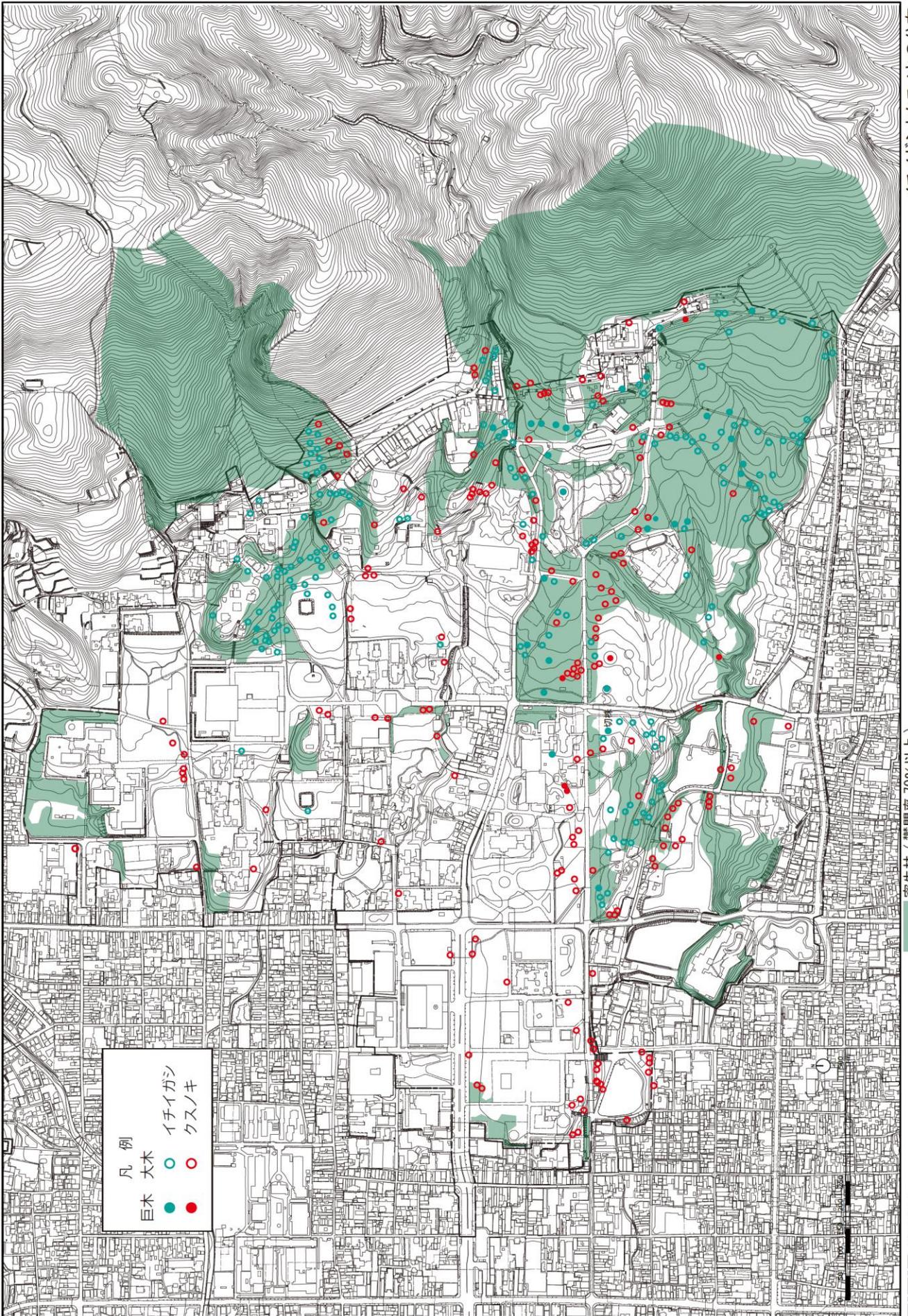
イチイガシのほとんどは鬱閉度の高いところに分布しており、例外として浅茅ヶ原の梅林や東塔跡園地のサクラ林に混在するイチイガシは鬱閉度が低い。これらの花木林に混在するイチイガシは、下枝や主幹を剪定されているものが見られる。



片岡梅林のイチイガシ 下枝剪定



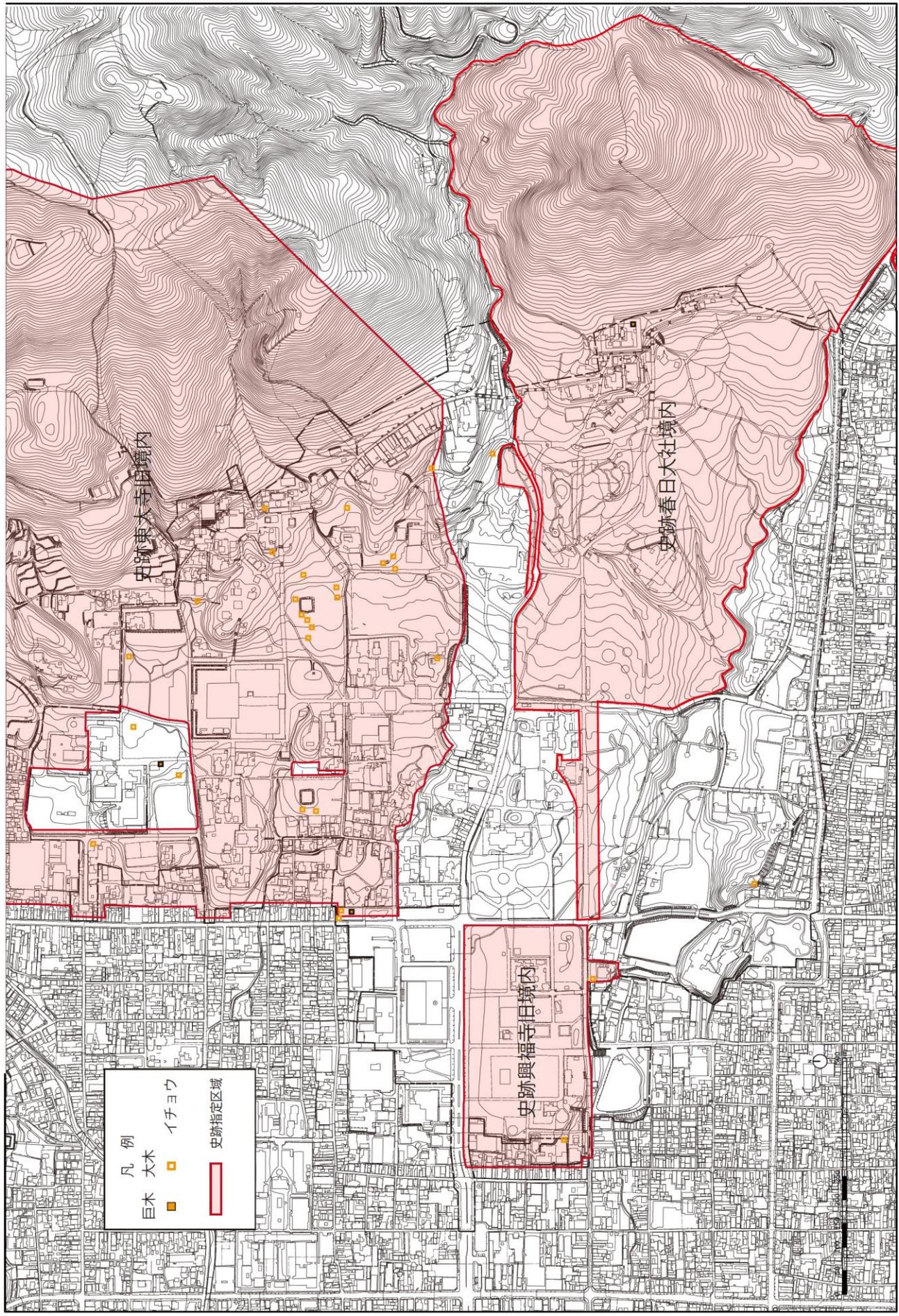
東塔跡園地サクラ林のイチイガシ 主幹剪定



図：イチイガシ・クスノキ大径木の分布

⑥イチョウの分布

<p>大径木の分布</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・巨木は、東大寺旧境内(現在は東大寺境内、正倉院、公園区域)に分布している。</li> <li>・大木は大半が東大寺旧境内(現在は東大寺境内、正倉院、公園区域など)に分布しており、一部興福寺境内、春日大社境内に位置する。</li> <li>・イチョウの大径木は、寺院建物や草地の周辺に位置しており、樹高があり、特徴的な樹形で目につきやすい。</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>公園館北側の大木</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>正倉院南広場から大仏池を望む</p> </div> </div>
<p>特徴・由来他</p>	<p>○紅葉の代表種</p> <p>奈良公園のイチョウは、イロハモミジ、サクラ類、ナンキンハゼ等と並んで紅葉観賞樹木の代表種である。紅葉する樹木の中では、樹高、枝張り共に最大級であり、単木で十分に見応えがある。また、落葉量が多いためか芝生一面に敷き詰められたように見える景色は独特で、人気が高い。</p> <p>○古い時代に中国から渡来</p> <p>イチョウは中国原産の落葉樹で、古い時代に日本に渡来し各地に植栽されている。社寺境内に植栽されることが多いほか、大気汚染に強いことから街路樹として植えられることも多い。</p> <p>出典:「奈良公園の植物」北川尚史</p>



図：イチョウ大径木の分布と史跡指定範囲